

都医 NEWS

Vol. 662

東京都医師会 定例記者会見	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
都医からのお知らせ ほか	05
地区医師会長からの一言	06

発行所 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 1部70円(税別)



目黒川の桜

東京都医師会 定例記者会見

毎月第2火曜日開催

緊急事態宣言の再延長を受けて



角田副会長



平川副会長



鳥居理事

尾崎治夫会長は「これまで急性期病院が注目されてきたが、今後は回復期、慢性期の病院と連携して、回復した後

今後の医療提供体制

東京医師会は3月9日(火)に定例記者会見を開催し、今後の医療提供体制や積極的なPCR検査の実施、ワクチンの接種体制などについて見解を示した。

守りと攻めの検査を

猪口正孝副会長は「高度急性期・急性期病床で新型コロナウイルス

さらに、クラスター対策だけでなく、飲食店におけるPCR検査を積極的に実施するなど、守りと攻めの検査を展開していくことが重要」と述べた。

ワクチン接種体制

角田副会長は、医療従事者等を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種体制を説明した。

重症化を抑えるために

鳥居理事は、新型コロナウイルス感染症の重症化を抑えるイベルメクチンの有用性を解説した。



尾崎会長

れる体制を整えていきたい。2025年に向けて準備してきた地域包括ケアシステムを強化するとともに、会食による感染が増えていることから、攻めの検査を行っていく

また、高齢者施設での感染が増えているため、職員への検査を定期的



猪口副会長

回復後の患者受け入れ

平川博之副会長は、自宅療養者への支援や、介護老人保健施設を活用した感染症回復後の要介護者受け入れ事業について報告した。

底流

新型コロナウイルスワクチンの接種開始にあたり

新型コロナウイルスワクチンの住民接種開始にあたり、不安を抱える人々に対しかかりつけ医として相談支援を行っていききたい。

新型コロナウイルス感染症が発生して1年が経過した。この間、誰もが有効な治療薬やワクチンが開発されることを期待していた。ワクチンについては、昨年末から欧米で接種が開始され、我が国でも

2月に一部医療機関で先行接種という形で始まった。4月にはいよいよ高齢者、その後順次一般住民まで接種が行われる。今回のワクチンはメッセンジャーRNA(mRNA)を使った今までにないもので、筋肉注射で接種する。このワクチンは、痛い、発熱する、アナフィラキシーの頻度が高いという報告が海外からなされ、接種をする医師も被接種者である住民も一抹の不安を抱いているというのが現状だ。これが届き始めるとかか

りつけ医への問い合わせが増える。接種時期や予約方法については、区市町村ごとに異なるので自治体や地区医師会からの情報を確認してほしい。接種にあたり注意を要する者の目安は、インフルエンザなど従来のワクチンと同様だ。新型コロナウイルスワクチンに特有な注意対象者は、ポリエチレングリコールやポリソルベートに対するアレルギーのある者だ。罹患時重症化リスクの高い高齢者への接種は通常医療を守るためにも円滑に進める必要がある、かかりつけ医のみなさまの協力が不可欠である。(川上二恵)

在の状況だろう。最初に使うファイザー社のワクチンについては、すでに適正使用ガイドが出され、インターネット上で読むことが可能なので、まずはご一読いただきたい。ワクチンは、超低温冷凍庫から出して室温で解凍した後、生食食塩液を加え希釈して使用する。希釈後は6時間以内に使用しなければならず、手際良く接種を進めることが求められる。住民接種では、事前に区市町村からクーポン券が発行される。高齢者分は3月下旬から4月初旬に発行される予定だ。これが届き始めるとかか

今後の感染拡大に備え、地域の医療機関との連携による自宅療養者等への医療提供体制の構築のために地区医師会を対象とした意向調査を行い、結果をとりまとめた。(渋谷区医師会)

地区医師会長連絡協議会報告

令和3年3月19日(金)

市中感染を防ぐために歓楽街や繁華街を定期的に検査していくことも必要になってくる。これから始まるワクチン接種事業についても、地区医師会の先生方と東京都医師会が一体となって進めていきたいと思います。

◎都医からの伝達事項

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種体制について
新型コロナウイルスワクチン接種体制について、診療所の連携型接種施設の指定に向けて、基本型接種施設とのマッチングなど地区医師会の協力をお願いする。

(2) 東京2020大会に向けたシティキャストに対するMR(麻しん・風しん混合)ワクチン接種について
令和元年度から本会に新たに設置した高齢社会における運転技能および運転環境検討委

(3) 都立学校学校医および産業医の推薦に関する協力について
都立学校の学校医や産業医について、地元の都立学校から推薦の依頼があった場合は、区市町村立の学校と同様に推薦をお願いする。

(4) 「高齢社会における運転技能・運転環境シミュレーション」の開催について
令和元年度から本会に新たに設置した高齢社会における運転技能および運転環境検討委

(5) 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者に対する医療支援に係る意向調査について
今後の感染拡大に備え、地域の医療機関との連携による自宅療養者等への医療提供体制の構築のために地区医師会を対象とした意向調査を行い、結果をとりまとめた。(渋谷区医師会)

◎その他
(1) 新型コロナウイルスの配分について
(目黒区医師会)

尾崎治夫会長は挨拶の中で「今回の緊急事態宣言の効果は下げ止まりで、むしろリバウンドの兆しがみられる。緊急事態宣言が解除された後は5つのリバウンド対策を実施することになるが、積極的にPCR検査を取り入れ、病院や高齢者施設などで定期的に検査する必要がある。また、

東京2020大会の開催に向けたシティキャストへのMRワクチン接種について、東京都オリンピック・パラリンピック準備局から本会に新たに設置した高齢社会における運転技能および運転環境検討委

願いはひとつ。心をひとつに。

コロナ時代を生きる vol.4

スムーズな新型コロナワクチン接種にご協力を。

会長の解説を動画でも
東京都医師会

2021年3月24日 朝日新聞都内版掲載
スムーズな新型コロナウイルスワクチン接種のために協力を呼び掛ける動画を本会ホームページで公開している。

<https://www.tokyo.med.or.jp/22937>



157 みどりの広場

地域包括ケアシステムと介護報酬改定

衆議院議員 安藤高夫



東京都医師会の先生方におかれましては、平素よりご支援を賜り、深く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症が流行する中、都民の命と健康を守るため献身的に力を尽くしていただいていることに、心からの敬意を表します。ワクチン接種計画についても多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

本原稿を書いている時点では、医療従事者の優先接種が始まった地域が出てきたところですが、今のところ重大な副作用の報告もなく、国民のワ

クチン接種意欲についても懸念していただくと低くはないことに、ひとまず安心をしております。ワクチン確保の問題などもあって状況は変動的であり、国民にワクチンが行きわたるまで長丁場となる

療のニーズを併せ持つケースが多いため、高齢者を地域で支えていくためには医療と介護の連携が非常に重要となります。4月1日に介護報酬が改定されましたが、今回の改定の柱にも「地域包括ケアシステムの推進」が掲げられ、

「認知症への対応力向上に向けた取り組みの推進」や「看取りへの対応の充実」などを取り入れた改定が行われました。

かかりつけ医が関係するものでは、医療ニーズのある利用者が介護老人保健施設に短期入所した際に、医師が診療計画に基づき必要な診療・検査などを行い、退所時にかかりつけ医に情報提供を行うことに対する加算（総合医学管理加算）が新設されました。また、ポリファーマシー対策

「自立支援・重度化防止」、特に在宅医療との関わりです。将来的には介護の世界にも「アウトルーム評価」が導入されいくことになるでしょう。

今年度中に作成され、来年度に始まる第8期介護保険事業計画は、各地域において構築された地域包括ケアシステムを活用していく2025年を間近に控えた重要な3年間となります。医療と介護を連携し、在宅医療や退院支援を充実させるためにも、介護報酬改定の方向性についても概略を把握していただけたら幸いです。



豊洲ぐるり公園 東京湾の夜景に包まれた公園

趣味の散歩

豊洲市場ができてから周辺の整備も進み、市場をぐるりと囲むように1周4.8キロメートルのランニングコース、釣りスポット、バーベキュースペースなどが完成した。駐車場も含めて365日24時間オープンしているのもうれしい。豊洲市場近くへは自転車通勤で毎日通っているが、先日仕事帰りに夜の公園を走って見た。有明北橋北詰にあるスロープを降りきるとそこは水辺ぎりぎりを通るぐるり公園のコース。コースは2つあって、水際ぎりぎりのコースと一段上がった高台のコースが平行しており、どちらのコースにするかはその時の気分次第で自由！高台のコースがあることから、津波や高潮を想定した災害対策も十分に実施されているのだと思った。いざ、夜に公園を走って見たら昼間とは別世界だった（写真）。ライトアップ

（江東区医師会・最上聡）

知っていますか?

mRNA ワクチン

新型コロナウイルスのスパイクタンパク質を作るmRNAを脂肪微粒子でくるんだ懸濁液。擬似的なウイルス感染を体内で生じさせ、細胞性免疫、液性免疫の両方を活性化するため、強力な感染・重症化予防効果が期待できる。変異ウイルスが出た場合も塩基配列を変えるだけで迅速な対応が可能となる。mRNAは極めて壊れやすいので適切な温度管理を必要とする。

また、改定の大きな目玉のひとつが「LIFE（科学的介護情報システム、Long-term care Information system For Evidence）」の活用です。

掲示板

怪談に学ぶ 脳神経内科 駒ヶ嶺朋子 著



怪談はおおよそ医学と関係のないものと切り捨てたくなるが必ずしもそうではない。もし患者が「幽霊がいる」と言ったとしたら、多くの読者諸氏は「精神科疾患」を思い出すであろう。なるほど妄想から発しているもの（妄想知覚や妄想着想）であるとすればそうかもしれない。しかし果たしてそうであろうか？

幽霊そのものが視覚を通して発生した場合（幻視）、必ずしも精神科領域の話に留まらない可能性が多いにある。幻視の場合、レビー小体型認知症やアルコール関連疾患、そして眼科領域ではCharles Bonnet syndrome (CBS) などがあるからである。

本書は幻視に限らず、伝承である怪談現象を患者の訴えから読み解いて、特に脳神経内科領域の場合このように診療を進めたらよいか書かれている。10章からなるケーススタディは、実診療であればどのような病気を考え、またどのような知識を整理習得する必要があるかのマイルストーンの役割を果たしている。筆者のイントロダクションからも、「医学書」としての位置付けを放棄しないという並々ならぬ決意が読み解けるのである。章の中には古典原文がそのまま掲載されており、古文ファンであれば文法を復習しつつ読み進めていくのもおもしろいかも。専門書として、あるいは一般書として有意義な時間を約束する一冊である。

発行▼中外医学社 価格▼3,520円(税込)

「都医ニュース2号」をお持ちの方は「一報ください」



東京都医師会 広報学術情報課 ☎03-33294-8821

心れあいポスト



各地区会報から

江戸川区医師会 吉岡晴子

野菜づくり

野菜づくりを初めて体験したのは、戦時中通っていた第七高女(現小松川高校)です。疎開しない人への労働動員です。第七の学校農園として江戸川河川敷が与えられました。ここは今小岩菖蒲園になっている所です。硬い河川敷を耕すのはとても大変でした。さつま芋のたね芋、麦の種を与えられ、これを植えつけ、種をまき、生育を見守るわけです。ここでとれた、さつま芋、麦はすべて国へ供出したそうです。寒風の麦ふみもしました。麦刈は首からつるしたタオルを1/2に折って作った袋に穂だけ鋤で切って入れます。芋掘りもしました。

戦後はじめ国よりのたね芋、麦の種はもらいましたが、とれたさつま芋を少しいただきました。

戦時中の食糧難の時です。昔から草花づくりが好きだった亡母の草花畑は、すっかり野菜畑になりました。もちろん食材がなくなって、自分で作るほかなかったためです。空地はすべて畑となりました。どぶ川にクアイを作っている人もいました。

知り合いを頼って、子供の着物などを持参し物々交換して、苗や種を分けていただいていた。敗戦後には闇市や通りばたの夜店で買うことができるようになりました。今思い出しても、ずい分多種ありました。ナス、キュウリ、えんどう豆、トウモロコシ、じゃが芋、ほうれん草、自生するフキ、などですが、肥料は自家製(?)のコヤシです。

風の強い日には、トウモロコシは倒れてしまい起こすのが大変でしたし、カボチャは屋根にまではい上ってくるので、め花が見つかるとうちで受粉します。

落花生は、名の通り地上で咲いた花はひとりでに地下に入り、実となります。秋に土の上に残った茎を引くと、根の先についた豆がとれます。これを一つずつとるのですがそこは同じです。実は皮ごとゆでて皮を外し、ごはんの中に入れて炊き込みにしたのは、びっくりでした。里芋は葉の上に雨などの水玉がころころとでき、この水で習字をするとうまく書けるそうです。トマトとナスは連作を嫌いますので、去年はどこに植えたかなどを覚えておきます。

また、これらは野菜とは言えないでしょうが、果物も作っています。イチゴは赤い実をつけるのが楽しみです。

食べるもの以外でもヘチマは実を干してすじの部分をつわし代りに、ひょうたんも実を干して中を抜き液体の入れ物にします。

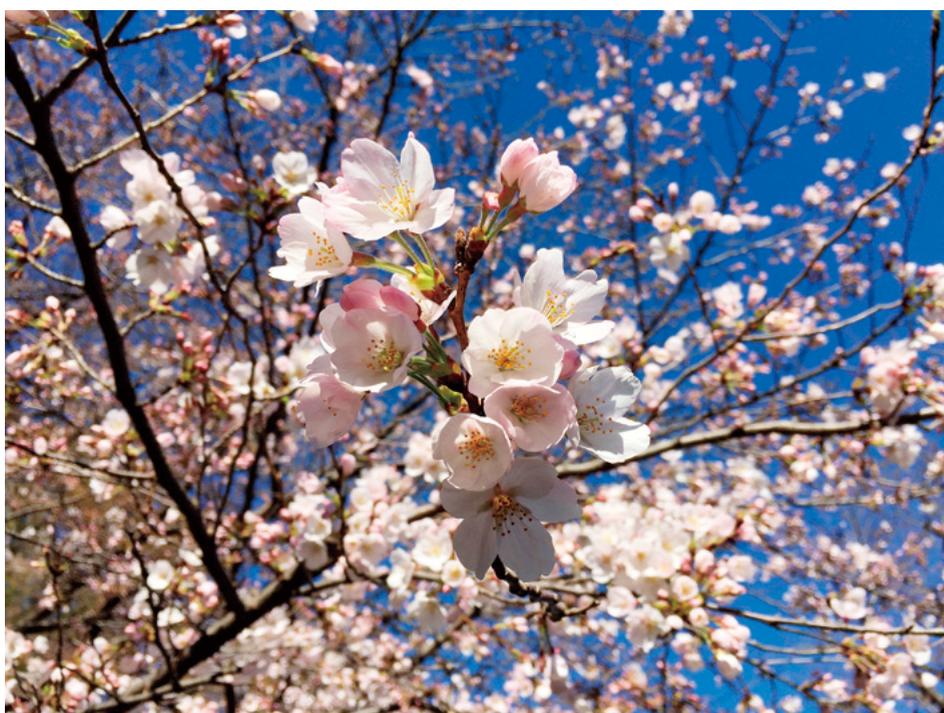
果物は樹のものが多く、夏みかん、梅、桃、キンカン、小さいサクランボ、キウイ、などです。前から植えられていた樹や、おそらく食物の食べ残りのかすに入っていたと思われる実生のもものもありません。夏みかんの木など大きくなっています。カボチャも出てきたり、何で混じったのかトウガンの実生も大きくなりました。梅は、豊作の年には塩漬けにしたり、梅酒を作ったりできます。また亡父が苗を買って育てていた八重桜は花がまとまった形で散りますので、塩漬けにして桜茶にするとおいしいです。

戦争が終わっても食糧難が続き、庭の防空壕も壊して畑に変身しました。亡父はキャベツが巻かないと言って、ひもでしばってやってみました。そんなことしても巻きませんでした。

現代の野菜づくりは、いろいろと研究され、どの時期に種をまき、いつ収穫するか考えられています。温室作りの物も多いようです。

今の野菜づくりにはとてもかかいませんが、畑で野菜を作ったことは楽しい思い出です。

(江戸川区医師会会報 351号から抜粋)



サクラ

武蔵野市医師会 藤田光裕

北多摩医師会 鎌田康太郎

AIとの共存

今や時代はAI流行である。自動車の運転、人物認識、ゲーム関係、さらに囲碁将棋の世界もAI師匠に手解きしてもらっての達人がたくさんいる。そして医療の世界にもAIの進出がみられている。「AIが高度な医療診断」と新聞の一面に大きく掲載され、政府はがんやMRIへのビッグデータ活用の構築に乗り出したという。医療には、知識・経験・洞察・判断・技術など多くの重要な要素が必要だ。しかし人間の能力には限界があり、記憶力・持続力は機械には到底か

なわない。だが経験と勘、そして咄嗟の判断はどうであろうか。新交通システム「シーサイドライン」の逆走事故など、コンピューターでも誤作動は生じ得る。もし、医師とAIで判断の相違が生じた時、患者はどちらの判断を優先して治療方針の決定を望むであろうか。

医師がAIに使われるのではなく、医師がAIの長所を活用することが必須条件だ。

(北多摩医師会会報 第573号から抜粋)

無 声 拜 聴

ジェネリック

後発医薬品では一流の製薬企業にあたる富山にある工場が、一時営業停止処分との報道があった。相当昔の話だが、患者さんから「先生こんなのが出てきたんだけど…」と、見れば溶けずに出てきたクリ達…ご丁寧に持参され見せてくださったが、素晴らしい生体機能のひとつの忘却により、それらをどうしたのか記憶はない。脱線したが、いまは溶出試験やキチンとした品質管理が求められているのに、そこに問題があり今回の処分になった様相。

厚労省もかつては「だわって」「同じ成分」という表現をしてきたように思うが、いつの間にか表現が変わっている。とにかく最初は強い違和感を覚えたが、今では「同じ効果」とうたっているのだから、厳格な製品ルールを作ったのだろう。

閑話休題、「日本人は責任感が強い。社会に対しての責務をとっても重要視して確実にこなす」と、そのいわゆる組織には迷惑をかける努力が、他の国の人々と比べてとても強い。が、社会は個人に対しての責任を強く持っているようには見えない」という意見を聞いた。国外から日本を研究している方の話だったような記憶がある。書き出しの事象の理解とは異なるが、結局それが「いじめ」や「差別」の根元になっているのではないかというのが趣旨だったように記憶している。

現在ちまたを騒がせている新型コロナウイルス感染症についても、風評被害や偏見が問題視されている。個人が不断の努力をしても、結果のみを見て周囲は判断し、深く考えることなく集団はその捌け口として被害者を責める。「ジェネリック日本人」なんて言葉は存在しないだろうが、先発品の最後の方には引掛りと自負しているの

で、今後はより一層自らの足元を見て生きていきたい。(坪田 淳)

都医からのお知らせ INFORMATION

／ 観て学んで実践できる無料動画配信中 / コロナに負けない!フレイル予防

医療・介護に関係する職能団体等で構成する東京都多職種連携連絡会(東京都委託事業)において、都民向けに、新型コロナウイルス感染症対策で自粛傾向にある高齢者の生活不活発によるフレイル進行を防ぐため、医師・歯科医師による講演およびリハビリテーション専門職による実演動画を作成しました。

都民の皆様へ伝えたい「フレイル予防」について大事な知識とおうちで簡単にできる体操をまとめています。

東京都ホームページでぜひ動画をご覧ください。 [東京都フレイル予防動画](#) | Q

フレイル予防「コロナ・フレイルを予防するために」

- (1) フレイル予防～「コロナ・フレイル」を予防するために～
医師/東京大学 飯島勝矢
- (2) 【体操動画付き】理学療法士(PT)から学ぶフレイル予防!
理学療法士 鈴木享之
- (3) 【体操動画付き】作業療法士(OT)から学ぶフレイル予防!
作業療法士 今井悠人

口腔機能低下(いわゆるオーラルフレイル)予防「健康長寿の鍵は口にあります」

- (1) 口腔機能低下(いわゆるオーラルフレイル) 予防
～健康長寿の鍵は口にあります～
歯科医師/日本歯科大学 菊谷 武
- (2) 【体操動画付き】言語聴覚士から学ぶお口の健康体操
言語聴覚士 芦田 彩

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/zaitakuryouyou/koronanimakenai.html

東京都福祉保健局 > 医療・保健 > 医療・保健施策 > 在宅療養 > 【無料動画配信】コロナに負けない!フレイル予防

■お問い合わせ

東京都福祉保健局医療政策部医療政策課 TEL: 03-5320-4417



第449回 国際治療談話会 例会 「ICT、AIのヘルスケアでの活用」

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局 世田谷区上馬1-15-3 MK三軒茶屋ビル3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <http://www.imsj.or.jp/>

日時 ▶ 5月27日(木) 18時30分～20時30分 形式 ▶ WEB講演

開会挨拶 ▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)

司会 ▶ 近藤太郎((公財)日本国際医学協会 常務理事)

【第1部】講演 I 「サステナブルな医療と社会を創るヘルステック・イノベーション」高崎洋介(一般社団法人 持続可能社会推進機構 理事長/医師) 講演 II 「ICT時代に必要な価値に基づく医療とその戦略」山本雄士(株式会社ミナケア 代表取締役社長/医師)

【第2部】感想 ▶ 「コンピューターが拓く未来」森本典繁(日本IBM 常務執行役員 最高技術責任者 兼 研究開発担当)

申込方法 ▶ 右記QRコードまたは当協会ホームページをご覧ください。

会費 ▶ 無料

取得単位 ▶ 日医生涯教育制度1単位(CC: 9、0)

*新型コロナウイルス感染症の情勢により、内容が変更または中止となる場合があります。



医師国保からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症に係るPCR検査等の自家診療の取り扱いについて

この度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、組合規約及び保険給付規程を改正し、行政検査としてPCR検査又は抗原検査を自院で実施した場合に自家診療を認め療養の給付を行うこととしました。

詳しい内容はホームページをご覧ください。
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6434 (業務課)

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医^{ニュース}NEWS

2021

Vol.
662

地区医師会長からの一言

大田区三医師会の活動について

田園調布医師会長 並木敦也



コロナ禍にあって、命を守るための感染拡大防止が優先なのか、生活を守るための経済活動が優先なのか、難しい舵取りに迷う中、常に「感染拡大防止なくして経済再生なし」と力強いメッセージを発信してこられた尾崎会長はじめ、都医の執行部の先生方のご尽力に感謝申し上げます。

ここ大田区は、もともと昭和22年に大森区と蒲田区が合併して誕生いたしました。今や23区の中で最も広く、約74万人の区民が暮らします。賑わう商店街の数や世界のものづくりを支える町工場の数は都内で1番です。歴史的な文化財や史跡も多く、自然に恵まれ、海と川がある一方、乗降客数世界第4位の羽田空港(東京国際空港)を有することも大田区の大きな特徴です。

この広くて多様性豊かな大田区には、田園調布医師会、大森医師会、蒲田医師会の大田区三医師会があり、緊密に連携しながらそれぞれの地区で、地域医療を担う医療活動を行ってきました。特に、区民に対する健診事業、各種がん検診、ワクチン接種、学校保健、在宅医療、区民公開講座や大田区医学会などの学術事業などは、大田区行政とも大いに協力し実施しております。

しかしながら昨春からは、もっぱら新型コロナウイルス感染症対策に費やされることになりました。大田区内すべての病院、医師会、保健所、区議の代表者からなる「新型コロナウイルス対策調整委員会」を三医師会で立ち上げ、この感染症に対する施策と全医療機関での情報共有に努めてきました。PCRセンターの設置、運営、発熱外来や病床の状況把握、年末年始の対応などです。今年2月には自宅療養者、待機者に対する検討会も開催

され、かかりつけ医がこれまで以上に関わり、在宅療養支援診療所や各医師会にある在宅医療相談窓口にも協力してもらい、入院やホテル療養のできない患者へのサポートを始めています。

国内では、いよいよコロナワクチンの医療従事者への先行接種が始まり、4月から高齢者への接種も開始される予定です。2月末現在、大田区では、三医師会と行政との間でワクチン接種検討委員会が始まりました。続く医療従事者への優先接種の後、まずは大田区の高齢者、約16.6万人が対象になります。いかに安全かつ無駄のないよう効率良く、スピーディーに実施できるのか、また接種率を上げるためにも、どうすれば利便性良く、安心してワクチン接種を受けてもらえるのか、まさに、かかりつけ医の存在が重要です。その後の一般区民への接種を見据えても、集団接種と個別接種の両輪でバランス良く行えるよう検討していく必要があると考えます。そこで田園調布医師会では、連携型接種施設に登録を行い、医師会館でのワクチン接種を実施することはできないか検討を始めました。

各種報道によれば、ワクチンの安定的な供給そのものに不安がありますが、一方で米国では3番目となるワクチンがFDAに承認されると聞きます。J&J社製のワクチンは1回の接種でよく、保管や配送も容易であることから、日本での承認と導入が大変期待されます。

まだまだ課題が多いと思われませんが、それでも、今後ワクチン接種が円滑に進み、感染症収束の切り札となることを信じたいところです。